

発表 ③

中山間地の棚田と自然農がある暮らし

柴田浩之、柴田卯(うさぎ)

自然農歴 8 年。

田 1.8 反。畑と果樹、約 3.3 反を営む

熊本県菊池市 在住

熊本県菊池市に移住、新規就農して3年を過ぎました。耕さない田畑はまだ幼いですが3年目にしてようやく変化を見せ始めています。自然農に出会ったきっかけは2013年、千葉県の四街道自然農塾に出会えた事です。主宰の木川さんを始め、学びの場の方々の自然体な姿に心が落ち着いて安心していく自分がありました。初めてののお米作り。台風が来ても倒れず整然と稲穂を垂れるトヨサト、川の氾濫で稲穂まで水に浸かっても何事もなかったようにそこにあり続けるトヨサト。これからの自分たちもそうありたいと自然農への思いを強くしました。近隣の農家の方々にも色んな事を教えてもらったり、お野菜や沢山の宝物を頂きました。農に触れる事が全くなかった自分たちが温かく地域に育てられた1年でした。

農的生活を求めて東京から長崎県に移住、幸運にも憧れの一貴山学びの場の門をくぐる事が出来ません。四街道の学びの場では鏡山さん著「自然農・栽培の手引き」を皆さん持参して田畑に立っていた位です。そうして初めて中山間地の棚田と向き合う事となりました。山の水は冷たく日照時間も限られ水の管理は気を使います。田圃に大穴が空いたり石垣が崩れたりした時々はどう応じていくか。大変な事もありますが、美味しい水と山のもの達の息吹き、鳥たちの声、虫たちの営みを間近に感じる事はかけがえのない喜びです。その中で育ったお米やお野菜を戴くと心が身体が生き返ります。天から授かった水を飲み、その地で育んだものを戴く。循環する暮らし。山を空を水を汚さない暮らし。当たり前前に出来ていた、ごく普通の暮らし。そんな日々を送りたいのだと実感しました。昨今、そんな当たり前な暮らしが出来なくなりつつある世の中に心を痛めています。一貴山では中山間地での暮らし、棚田での様々な向き合い方を学ぶ事が出来ました。この地でもっと学びを深める事が出来ればと思いました。

そんな時、熊本で農地と家が見つかる。浮かれた話に飛び付いてとんだしっぺ返しを食らう事となります。長崎の住まいを片付け熊本に向かうも、お目当ての母屋は取り壊されている。そこに自分たちの場所は何処にもありません。そんな苦境の数ヶ月でしたが、一貴山学びの場の皆様には沢山の救いの手を差し伸べて頂きました。励ましや気付き、広川の田圃でのお米作りの機会を頂いて夫婦二人生きる活力を取り戻していきます。熊本では21世紀環境研究会の佐々木さん、平井さんに新しい農的生活に向けて様々な助けを頂きます。自然農に理解があり自然農の暮らしを応援頂きました。熊本県菊池市の中山間地で家を買う事になります。近くに候補となる農地を6ヶ所絞り込み、その内の1ヶ所を借りる事となります。地域の一員となり集落に溶け込む選択をします。幸いな事に、この地の人たちは自分たちを温かく受け入れてくれました。ここは水が豊かです。標高300メートルの棚田は山に囲まれ日照こそ限られますが自然がまだ残っています。灰で洗えば水を汚しません。灰はかまどや薪ストーブで余る程出ます。山の倒木を切り、整えていくと自然と薪が集まります。薪は調理やお風呂、暖房で大活躍です。灯油や電気よりも自身の暮らしの中で廻っていきます。お米があると安心します。お野菜や山の幸は日々の食卓を豊かにしてくれます。自然農の暮らしは穏やかな日々です。田畑に立てば自然の有り様から気付きを得られ自分で物事を考えます。当たり前の事なのですが自然農

に出会う前は他のものに囚われていたように感じています。考えているつもりで実は考えていないのです。この環境を次世代に残したい。ただただ普通の暮らし。静かに穏やかに暮らして生きたい。そう思う次第です。全ての皆様に感謝申し上げます。